

大切なこととは何か？

1. 自分にとっての大切なこと、あるいは大切な何かとは何ですか？と出席者に聞いた：

A さん；健康。B さん；感性。C さん；人との繋がり（親、会社の同僚）。D さん；妻。
そこで大胆にも大別すると、「人、あるいは人間関係」と「概念」に分かれた。
2. ここで司会より、この例会にて使用する言葉として、「大事」と「大切」の違いを下記のように説明し、出席者の合意を得て、その後 3 項以降の議論を進めた：
 - 大事；仏が衆生救済のために、この世に現れるという重大事を意味する語であった。「一大事因縁」ともいわれ、仏が衆生を救うためにこの世に現れて、それによって成仏するという、最も大切な目的の意味の言葉である。この「一大事」が一般にも広まり、重大な出来事を意味するようになったが、現在では主に悪い事態の場合に用いられている。
 - 大切；「大いに迫る(切る)」「切迫する」の意味を漢字表記し、音読みさせた和製漢語。「緊急を要するさま」の意味から、平安末期に「肝要なさま」の意味で用いられた。中世には「かけがえのないもの」の意味から「心から愛する」意味として使われるようになり、1603 年『日葡辞書』では「大切」が「愛」と訳されている。
3. その大切な何かは、なぜあなたにとって「大切」と思えるのか？ または、何があなたに「大切」と思わせるのか？について、考えてみた：
 - (1) 大切なモノ、人、人間関係

「大切な父親の形見の時計」を考えてみる。この場合には、時計という物理的なモノが大切なのではなく、その背景にある、「父親との思い出」こそが、その物理的なモノとしての時計を“大切”たらしめていると考えられる。

また、「大切な人」も同様にその生物学的な個体が大切なのではなく、過去共通にその人と経験した、自分の“思い出”こそがその人を“大切”たらしめていると考えられる。
 - (2) 感性、健康：概念

その個人に帰着できる概念（例：感性、健康）を“大切”たらしめる正体は、何だろうか？ 思い出に代表される“時間軸”に答えを見出す試みについて議論したが、以下の 2 つの意見に集約されたが、一つの結論に達することはできなかった：

 - ・ある人が自分の感性を大切だと考えていたとする。その場合、その人は時間的な経過を追って考え、失うことを想像し、それまで持っていたモノ（感性）を大切だと思うのではないだろうか。過去の“感性”というモノに対するその人の思い出が自分で“大切”なのではないか。
 - ・その限りでなく、純粋に、突然突発的に、感情的にとても“大切”だと思える状態もあり得る。またその個人が持っていないくとも、他の人の感性を“大切”だと思えることもあろう。
4. まとめ

今回は大上段に“大切”を大切たらしめる正体をメタ視点で探る試みであったが、想像以上に深く、語り尽くすにはとても時間が足りなかった。司会の不甲斐なさを痛感した。

以上